こらぼ大森イベント掲示板

こらぼ de アート
アートでつながる人・地域・こらぼ

日時:2015 年 3 月 12 日(木)、13 日(金)14 日(土)
午前 10 時～午後 4 時
場所：こらぼ大森　1・2 階
内容：こらぼ大森で活動する団体や個人の皆さんの創作活動と作品の展示（絵画・書道・映像・工芸等）とワークショップを行います。また、あわせて大森地域の町工場の皆様のご協力を頂き、そこで制作されている金属加工製品の一部を展示致します。大田のモノづくりの奥深さを実感できます。楽しい企画も準備しています。ご来場お待ちしております。
主催：NPO 法人大森コラボレーション
お問い合わせ：03-5753-7884

こらぼ大森共同事務室の使用団体募集

こらぼ大森では、立ち上げ間もない NPO などの区民活動団体の皆様に、通年利用できる事務所スペースをお貸ししています。
入居団体が、こらぼ大森を拠点として様々な団体と協働しながら活動することで、団体の育成とこらぼ大森を中心とした地域の活性化を図ることを目的とした施設です。

対象：立ち上げ期や新たな事業展開を行う区民活動団体（NPO 法人、任意団体等）で、大田区区民活動情報サイト（オーちゃんネット）に登録する団体

お問い合わせ：大田区地域力推進課 区民協働担当
電話：03-5744-1204　FAX：03-5744-1518

大好評！ママも子どもも笑顔になれる
♪コーチング講座第 2 回開催決定

大変人気のあったコーチング講座、第 2 回目の開催が決定しました！毎日笑顔で子育てできればいいと分かっていても、なかなか出来ないのが現実。大人の接し方で子どもの能力を引き出すことができて、子どもの反応が変わるコミュニケーションスキルがあるとしたら・・・。実践を交えながらコーチング基本スキルの傾聴、承認を学んでみませんか？

日程：1/16、30、2/6、20、3/6
　　各金曜日（全 5 回）10：00 ～ 11：30
場所：こらぼ大森　2 F 会議室 （大田区大森西 2-16-2）
対象：幼児及び小学校低学年のお子さんをお持ちの保護者対象（未就学児同伴不可）
持ち物：筆記用具
定員：15 名　先着順
受講料：1 回 1,200 円（全 5 回 6,000 円）
　　※欠席の回は次回コースへ振替可能
申込方法：住所、氏名、年齢、電話番号、お子さんの年齢をご記入の上、
csrcoach@yahoo.co.jp までメールにてお申込みください
電話の方は、080-6785-5677　福井まで

発行：こらぼ大森ニュース編集委員会
発効日：2015 年 2 月 1 日
TEL：03-5753-6616 FAX：03-5753-6560
住所：大田区大森西 2-16-2
大田区区民活動支援施設大森【こらぼ大森】内

2015 年 2 月 1 日発行

こらぼ大森ニュース

第 4 号

もくじ
・健康講座を開催しました
・LET'S こらぼ　市民がつくる TVF
・地域に種をまく／こんな本あんな本
・こらぼ大森イベント掲示板

健康講座を開催しました

去る 12 月 9 日、こらぼ大森 2F 会議室にて健康講座を開催しました。さわやかサポートの藁谷賢子さんと本間祥子さんからは、介護保険制度の仕組みと地域の支え合いづくりについて報告があり、「ちょっとした、おしゃべりの場はどこにあるのかな？」などの質問があがりました。
また、城南保健生協事務局次長の野口修二さんから「こらぼ大森での健康チェックの取り組み」について教えていただき、日常での健康管理の大切さを学びました。

LET'S こらぼ

大田区の区民活動を紹介。協働支援の可能性を探ります。

こらぼ大森２Fの共同事務室は区民活動団体に場所を提供しています。その団体のひとつ、NPO法人市民がつくるTVFは、市民一人ひとりがビデオを使いこなし、自由に、責任をもって表現する映像文化の育成を目指した、市民による市民のための自主映像組織です。NPOとしては数少ない映像メディア系の団体の取り組みと、地域との協働の課題などについて、事務局長の木下秀明さんに話を伺いました。

特定非営利活動法人 市民がつくるTVF

市民がつくるTVは、主に次のような活動をしています。1、『東京ビデオフェスティバル/TVF』の開催と、映像に関する『セミナー』『ワークショップ』による対話と普及促進。2、対象は、年齢、職業、プロアマを問わず、個人、団体、…の映像作品で、ジャンルもドキュメンタリー、ドラマ、記録教育、アニメーションなど様々。3、映像の上手下手など単に技術を評価するものではなく、何を伝えるのか、何が伝わるのか、その映像制作への思いを評価する。

その大きな活動であるビデオフェスティバルは、その後も毎年開催されています。全国の映像をつくる個人、団体、地域、コミュニティ、学校などから多くの作品が応募され、入賞作品をみんなで見ながら議論します。プロの作品と比べるとそのクオリティにはかなりの幅がありますが、「技術が稚拙だからと言って切り捨てるべきではありません。表現しようとする意志を読み取ることができたとき、そこには新鮮な感動があります」と木下さんは市民映像の魅力を語ります。

東京フィルムフェスティバル 2014

「TVFを始めてからも、映像自体の役割は変化しています。誰でも気軽に映像をつくることや発信することができるようになりました。また、それなしでは生活が成り立たないほど、映像が氾濫しています。だからこそ、正確な情報が求められるし、重要であるがゆえに、扱い方を間違えると恐い側面もあります」と木下さん。市民一人ひとりが映像を批判的に読み解く力、リテラシーの必要性を強調します。

フェスティバルは、今年も１月に蒲田の日本工学院専門学校で開催されました。大田区の教育委員会、文化振興協会、産業振興協会、そして観光協会からの後援を受けるなど、地域との連携を進めています。また、ビデオレポーターカレッジの開催などを通し、地域に市民映像文化を根付かせる活動にも余念がありません。

同時に、地域との協働に難しさも感じているといいます。福祉、環境、まちづくりといった他の活動に比べると、映像メディア系はなじみが薄く、どのような関わり方があるのか分かりにくいことも一因かもしれません。それでも起業家が本職の木下さんは、商店街の活性化など、映像が関わる余地はまだまだあるとみています。大田区内のNPO団体、地域などとの新しい協働のモデルを見てみたいものです。

地域に種をまく

山崎澤子さん（民生児童委員）

大森西にお住いの山崎澤子さんは、こらぼ大森内こども交流センターで民生児童委員として長年関わってこられました。それ以外にも、開桜小学校PTA、同小学校園芸ボランティア、さらに原っぱの会など、そのご活躍は多岐に渡ります。一見バラバラなそれらの活動に共通しているのは、地域に種をまくということ。

現在まで続いている開桜小学校園芸ボランティアは、旧大森２小と旧大森６小の統合で不安になっている子どもたちの気持ちをやわらげたいとの思いから始めたことだといいます。そこには幅広い世代のボランティアの方々が集まり、その会話の中から子育ての悩みを打ち明けるお母さんが現れ、人生の先輩である山崎さんは暖かく相談に応じてきたといいます。

「団地やマンションが多くなり庭がある家が少なくなりました。そういう家から忙しくバタバタと登校する子供たちには、せめて学校に足を踏み入れた瞬間にほっとした気持ちを持ってくれれば」と、山崎さん。

活動を長年継続しているその思いを尋ねると、「種をまいて水をやり花が咲く。その繰り返し、循環です」と、静かに答えていただきました。それに加えてかつてご自分のお子さんも地域に育ててもらったことに感謝の気持ちがあり、そのお返しの意味もあるのだとか。それもまた循環だと、山崎さんはいいます。

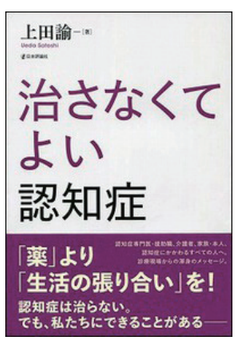
昨年１０周年を迎えたこらぼ大森については、「いいことをやっているのだろうけど、動きが止まっているように見えました。最近は体制も一新して、みんなでやっていこうという雰囲気を感じます」と感想をいただきました。こらぼ大森も、山崎さんの姿から学び、一粒々々種をまいていきます。

開桜小学校に咲く菊の花

こんな本あんな本

※こらぼ大森２F情報交流室１の図書コーナーで貸出できます。

★新着図書



治さなくてよい認知症
著者：上田論
出版社：日本評論社

認知症は治らない。だから治そうと努めなくてよい。治そうとする周りの「善意」が、本人にとってどれだけマイナスであるかを著者は強調します。あたかも治るかのように診察する医師、報じるメディアの罪は大きいと警鐘を鳴らします。なによりも重要なのは、周囲が「治らなくてもよいと早期に認識すること」なのだと。

周囲は認知症の人に対し「慰め、助け、共にする」こと、これに尽きると著者はいいます。本人にとっては、「家族ら介護者との交流、周囲の人たちと共にする日々の食事や『用事』、慕われ頼られる感じを持てる日常など、社会性と活動性と役割を持った生活ができているか」が大切であると。